

国指定名勝
旧古河庭園

■開園年月日
 昭和31(1956)年4月30日

■開園面積
 30,780.86㎡

■開園時間
 午前9時～午後5時
 (入園は午後4時30分まで)
 ※イベント開催期間などで時間延長が行われる場合もあります。

■休園日
 年末年始(12/29～1/1)
 ※維持管理の都合上、例年12月～2月に3日ほど、午後のみ休園。

■無料公開日
 みどりの日(5月4日)
 都民の日(10月1日)

■庭園ガイド(無料)
 土、日曜日、祝日
 (午前11時と午後2時の1日2回)
 ※気象状況等により実施を中止する場合があります。
 当日の実施についてはサービスセンターにお問い合わせください。

【お問合せ先】
 旧古河庭園サービスセンター
 ☎03-3910-0394
 〒114-0024 東京都北区西ヶ原1-27-39

スタンプ欄

	個人	団体 (20名以上)	年間パスポート (旧古河庭園)	年間パスポート (9庭園共通)
入園料	一般	150円	120円	600円
	65歳以上	70円	50円	280円
無料	小学生以下(要付添)及び中学生(都内在住もしくは在学) 身体障害者手帳、ミライID、愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳 または療育手帳持参の方と付添の方			

旧古河庭園・六義園「園結びチケット」 一般 400円 65歳以上 200円

洋館見学料が別途かかります。

洋館見学 洋館・茶室/管理:(公財)大谷美術館 ☎03-3910-8440

※旧古河庭園入園料が別途必要となります。詳細については、お問い合わせください。



【交通のご案内】

《電車》
 JR京浜東北線
 「上中里」下車徒歩7分

東京メトロ南北線
 「西ヶ原」下車徒歩7分

JR山手線
 「駒込」(北口)下車
 徒歩12分

※駐車場はありません。

六義園正門まで 徒歩20分
 染井門まで徒歩13分

東京都公園協会全般に関する問い合わせ先
 東京都公園協会本社 TEL. 03-3232-3011 ※8:30～17:30(土日・祝日、年末年始を除く)
<https://www.tokyo-park.or.jp>
 発行: 文化財庭園課 TEL. 03-3232-3018

国指定名勝
 きゅう ふる かわ てい えん
旧古河庭園
 Kyu-Furukawa Gardens
 和と洋が調和する大正の庭



指定管理者 公益財団法人 東京都公園協会

文化財庭園へご来園の皆様へ

都立庭園は、江戸、明治、大正時代から続く歴史・文化・自然を兼ね備えており、いずれも国や都の文化財に指定されています。震災や戦災、進む都市化の中で残された貴重な存在であり、この貴重な存在がよりよい状態で後世に残るよう、皆様にご理解とご協力をお願いいたします。

【庭園からのお願い】

- ペット(動物)を連れてのご入園、園内の動植物の採集、動物の利用、酒類の持込みはご遠慮ください。
- 写真撮影、写生は建物・添景物保護のためにお断りする場所があります。
- 文化財は不定期で保存修理工事を要することがあり、一部ご観賞いただけない部分があります。
- 園内全面禁煙です。喫煙所はありません。

- 都立文化財9庭園
- 浜離宮恩賜庭園
 - 旧芝離宮恩賜庭園
 - 小石川後楽園
 - 六義園
 - 旧岩崎邸庭園
 - 向島百花園
 - 清澄庭園
 - 旧古河庭園
 - 殿ヶ谷戸庭園

豪壮でおしゃれな建物、 和洋の庭、大正の息吹に触れる心地よい空間。

武蔵野台地の斜面と低地という地形を活かし、北側の小高い丘には洋館を建て、斜面には洋風庭園、そして低地には日本庭園を配したのが特徴です。この土地はもと明治の元勲・陸奥宗光の邸宅でしたが、宗光の次男が古河家の養子になった時、古河家の所有となりました（当時の建物は現存していません）。

現在の洋館と洋風庭園の設計者は、明治から大正にかけて、鹿鳴館、ニコライ堂、旧岩崎邸庭園洋館などを手がけ、日本の建築界の発展に多大な貢献をした英国人建築家のジョサイア・コンドル（1852～1920年）です。日本庭園の作庭者は、京都の庭師・植治こと小川治兵衛（1860～1933年）で、洋風庭園にも勝るとも劣らない魅力的な名園を造りあげています。旧古河庭園は、大正初期の庭園の原型を留める貴重な存在であり、平成18（2006）年1月26日に「旧古河氏庭園」（文化財指定名称）として国の名勝に指定されました。

石造りの洋館 （大谷美術館）

英国貴族の邸宅にならった古典様式で、天然スレートぶきレンガ造り。外壁は真鶴産の赤味をおびた新小松石（安山岩）で仕上げられており、雨にぬれると落ち着いた色調をかもしだします。



洋風庭園

テラス式の庭園に植えられたバラは、春と秋に見事な大輪の花を咲かせ、洋館の風情と相まって異国情緒を満喫させてくれます。洋風庭園は洋館から見下ろせるよう配置され、左右対称の幾何学模様になっています。



紅葉の日本庭園

日本庭園

日本庭園の中心は心字池。優雅な曲線が心を癒します。大滝、枯滝、大きな雪見灯籠が周囲の緑に映えて、この庭の風情をいっそう深いものにしています。明治・大正期の庭師、植治の作として有名です。

枯滝

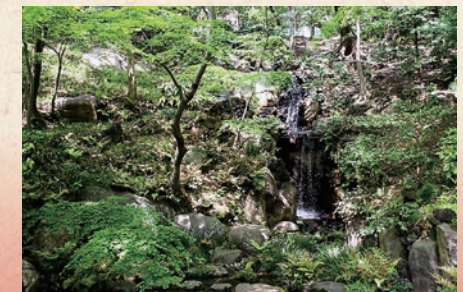
水を使わないで山水の景観を表現する「枯山水」の道具立てのひとつが枯滝。心字池の州浜の奥の溪谷の水源地を模した景観として枯滝石組があります。

心字池

「心」の草書体を形取り、鞍馬平石や伊予青石などで造られた池。池を眺める要となる「舟着石」があり、正面には「荒磯」、雪見灯籠、枯滝、石組み、そして背後には築山が見られます。

大滝

十数mの高所から落ちる滝。園内のもっとも勾配の急な所をさらに削って断崖とし、濃い樹林でおおって深山幽谷の趣があります。曲折した流れから始まり、数段の小滝となり最後は深い滝つぼに落ちるといった凝った造りです。



現在も井戸水を水源にしている大滝